

【特徴】

小児及び成人先天性心疾患術後の不整脈の診断と治療を実践している。
不整脈のカテーテルアブレーション治療と管理について研修できる。

【研修目標】

1. 一般目標

小児及び成人先天性心疾患術後の不整脈について、その病態と重症度を把握し適切な治療方針を立案できる。

カテーテルアブレーション治療について、その実際の技術を身につけることができる。

2. 行動目標

- (1) 主な小児及び成人先天性心疾患術後の不整脈の症状、自然歴を理解し説明できる。
- (2) 頻度の高い、WPW症候群、房室結節回帰性頻拍、洞不全症候群、房室ブロック、心室性、期外収縮心室頻拍の病態を把握し診断できる。
- (3) 12誘導心電図を記録でき、心電図記録から房室ブロック、上室性期外収縮、WPW症候群、房室結節回帰性頻拍、心室性期外収縮、心室頻拍などの基本的な不整脈の診断ができる。
- (4) 運動負荷心電図検査を施行でき、結果を評価できる。
- (5) カテーテルアブレーション検査を上級医と実施し、心臓電気生理学的検査の基本的な手技とその判読方法を理解できる。
- (6) 学校心臓検診要精検者に対する検査結果から管理区分を決めることができる。
- (7) 循環器治療薬（利尿薬、強心薬、血管拡張薬、抗不整脈薬、抗血栓薬など）の作用機序、小児薬用量、投与方法、副作用を知り、病態に応じた使用を理解できる。
- (8) 小児科専門医資格を取得するための要件を満たすと共に小児循環器専門医資格取得のための基礎を習得する。

【方略】

- (1) 入院患者を担当し、病歴、現症、検査所見を記載、上級医とともに治療方針を立案実践する。
- (2) 症例検討カンファレンスにて病状、治療方針を検討することにより疾患と検査結果、治療への理解を深める。
- (3) 運動負荷心電図検査を実習実践する。
- (4) 心臓電気生理学的検査、不整脈カテーテル治療に参加し指導医の指導を受け実習し、カンファレンスにて検討する。
- (5) 学校心臓検診の要精検者の心臓検診に参加し、所見記載、管理区分の決定を実習する。
- (6) 小児内科系診療科合同カンファレンスでの症例検討、研究発表に参加する
- (7) 各種研究会、学会での発表を行い、少なくとも1編の論文報告を行う。

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

【研修プログラム】

〔レジデント〕

1年目（卒後3年目）	2年目（卒後4年目）	3年目（卒後5年目）
小児不整脈科・小児循環器内科（3か月） 小児内科系4科をローテート（3か月毎） 住吉市民病院（6か月）		小児内科系1科をローテート（3か月） 小児循環器内科・小児不整脈科（9か月）

〔シニアレジデント〕

1年目（卒後6年目）	2年目（卒後7年目）	3年目（卒後8年目）
小児不整脈科・小児循環器内科		

【見学等問い合わせ先】

小児不整脈科部長 鈴木 嗣敏